

## 第3学年西組 社会科学学習指導案

### 「火事から命を守る人々の働き ～思いと行動が安全をつくる～」

学習指導者 網野 未来

#### 1 学級（34名）の実態

##### （1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果から、社会科の時間に「自分の考えがこれでよいか見直している」と答えた子供は、22名であった。交流の際に、友達の考えはどうかと考え、積極的に関わりながら学びを進めることは概ねできている。一方で、自分の考えだけを伝えて理由や根拠を示さなかったり、他者の考えを聞いた時にその理由や根拠を尋ねようとしなかったりする様相が見られる。

##### （2）本単元の学習に関する学級の実態

31名の子供が「火事を実際に目にしたり、テレビなどで見たりしたことがある」と答えており、火事に対して「怖い」「恐ろしい」「命を奪う」などのイメージをもっている。また、学校で火事が起こった時に、誰が自分を守ってくれるかを問うと、28名が「先生」、14名が「消防士」、13名が「家族」、11名が「友達」、5名が「自分」と答えた。さらに、火事の時に使える道具や設備を知っていると答えた子供は22名で、「消火器」や「スプリンクラー」という回答があった。

#### 2 本単元で習得を目指す「解決する」方法

考えの理由や根拠をはっきりさせる

#### 3 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

坂出市の火事の発生状況を知った子供たちは、「24件の火事があったのに、どうして死者は0人だったのだらう」という疑問を抱く。そして、「消防士が助けたからではないか」「火事になった家の人が消火したのではないか」と考え、「火事から命を守るための道具や設備、人の働きを調べよう」という単元の目標を設定する。そして、「消防車がサイレンを鳴らして走るのを見たことがあるよ。警察の人と同じで現場に早く駆けつけるのではないかな」「テレビで消防士が火を消しているのを見たことがあるよ。たくさんの方で消火しているのではないかな」「避難訓練の時に消火器について教えてもらったよ。火事が起こったら消火器を使って消火すると思うよ」などと生活経験を想起して発見した問題を集約し、課題を設定していく。さらに、学習経験を基に、「火事から命を守るための道具や設備がどこにあるか学校の中を回って探すとよさそうだ」「消防署を見学したり、働く人の話を聞いたりすると、消防署の人の働きについて分かりそうだ」などと解決方法の見通しをもつ。

解決場面では、時間的・空間的視野を広げ、消防署の人の働きについて表現していく。例えば、「普段は訓練や道具の点検をしていることから、消防署の人はいつ火事が起きても早く現場に駆けつけられるようにしていると言えるよ」「なるほど。道具の点検と訓練が根拠なのは同じだよ。付け足しで、24時間勤務と、防火服のズボンと靴をセットにしていることも根拠に書いたよ。この二つも、いつでも早く現場に駆けつけるための工夫だと思うよ」「なるほど。〇〇さんのおかげで考えの根拠が詳しくなったよ」などと消防署の見学で分かったことを根拠に消防署の人の働きについて友達と確認し合っていくのである。

振り返り場面では、「消防署の人は、訓練や道具の点検をして火事に備えていたよ。火事が起こった時には、早く消火できるように警察署や電力会社などと協力して地域の人々の命を守っていたよ」などと調べたことを総合していく。また、「△△さんが理由を説明してくれたから、疑問が解決したよ」「根拠を伝えると友達がよく分かってくれたよ」などと友達との関わりの中での学びを振り返り、共有することで、協働して学ぶことの大切さや、自分が友達の学びに貢献できたことを感じていく。

#### 4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

昨年の坂出市の火事の発生状況の資料を提示し、火事の発生件数や原因を知れるようにする。そして、死者は0人であったことを知らせ、24件の火事が起こったにもかかわらず、死者がいなかったことが驚きであるという子供の言葉を基に、その理由を予想する場を設定する。「消防士が守ってくれたから」「人々が避難したから」「消火器を使って消火したから」などの意見を整理する中で、「火事から命を守るための道具や設備、人の働きを調べよう」という単元の目標を設定する。

#### 5 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て (本時 8/9)

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p><b>① 火事が24件あったのに、なぜ死者は0人なのだろう</b></p> <p>写真や動画を基に、火事の怖さを共有する。坂出市の火事に関する資料を見て、分かったことを話し合う。24件の火事があったのに、死者は0人であったことに疑問を抱き、その理由について予想する。予想を整理するとともに、これからの学習で確かめたいことを話し合い、単元の目標を設定する。学校や家庭にある火事から命を守るための道具や設備についてすぐに調べられそうだと意識から次時の見通しをもつ。</p>	<p><b>【認知段階】</b></p> <p>前単元の学習で、学習課題についての考えをつくる際に「理由や根拠をはっきりさせる」という「解決する」方法を教示している。また、調べたことを全体で共有する際に、方法を使うと自分も周りの人もより納得することができるというよさを確認している。さらに、理由や根拠を友達と確認し合うことで、考えと理由や根拠がつながっているか確かめたり、自分の考えの理由や根拠により自信をもてたりすることができることを共有している。</p>
	<p><b>②③ 学校や家庭にある火事から命を守る道具や設備を見付けよう</b></p> <p>②では、学校にある消火器や消火栓、煙感知器や熱感知器、救助袋の数や位置を調べ校舎図にまとめる。③では、学校と家庭で調べたことを共有し、消防設備の特徴や置かれている理由を捉える。また、学校では消防計画が立てられていることや、設備の点検をしていることを知る。さらに、次時の消防署見学の計画を立てる。</p>	<p><b>【想起段階】</b></p> <p>「自分も周りの人も納得できる考えにするにはどうすればよかったかな」などと問いかけることで、方法を想起できるようにする。また、方法の想起が不十分な子供に対しては、個別に方法に関する掲示物への注目を促す声掛けを行うことで、方法の想起ができるようにする。</p>
二	<p><b>④～⑥ 消防署では、火事から命を守るためにどんなことをしているのだろう</b></p> <p>④、⑤では、坂出市消防本部へ見学に行き、施設や設備を見たり、消防署の人の話を聞いたりする。また、防火服を実際に着たり、放水体験を行ったりする。⑥では、見学で分かったことを共有し、出動に備え訓練や道具の点検に取り組んでいることや、火事の時には、通信指令室からの連絡により、様々な関係機関と連携し行動していることを捉える。119番の仕組みを図にまとめる中で、消防署見学の際に教えてもらった消防団と消防署の違いについて疑問をもつ。</p>	
三	<p><b>⑦ 消防団と消防署では、何が違うのだろう</b></p> <p>消防団員の活動を調べ、消防署員の活動と比較する中で、訓練や道具の点検という共通点や、普段は別の仕事をしたり学校に通ったりしているという相違点を捉える。一方で、坂出市には、地域の分団とは別に、どの地域にも属さない女性だけの分団があることを知り疑問をもつ。</p>	<p><b>考えの理由や根拠</b> (どこからそう考えたか、しょうこになる資料)</p> <p>↓あると</p> <p>自分の考えがよりはっきりとする まわりの人にも伝わりやすい 自分もまわりの人もなっとくできる</p> <p><b>【方法に関する掲示物】</b></p>
	<p><b>⑧ 女性分団があることのよさは何だろう</b></p> <p>女性分団があることのよさについて考え話し合い、工夫を凝らした広報や防火・防災講話などの活動により地域の防火・防災力の向上に貢献していることを捉える。火事から地域や自分自身の安全を守るために、自分たちにもできることがありそうだと意識から次時の見通しをもつ。</p>	
四	<p><b>⑨ 火事から命を守るために自分たちにできることは何だろう</b></p> <p>単元の学習を振り返り、火事から命を守るための道具や設備、人の働きについて分かったことを確認する。その後、既習を基に、ガスコンロやストーブを使ったら火を消したか確かめるなど、火事から命を守るために自分たちにできることを考え、表現する。</p>	

6 本時の学習

目標	女性分団があることよさについて考え話し合う活動を通して、防火・防災のために工夫を凝らした広報や講話などの活動を行うことで、地域の防火・防災力の向上に貢献していることを捉えることができる。
----	---

学習活動	主な子供の意識					
見通し	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <p>前の時間は消防団について学習したよ。仕事がない休日には、道具の点検や訓練を行っているよ。普段は別の仕事をしていたり、学校に通ったりしているけれど、いざという時は、消火や救助などをして自分たちのまちを守っていたね。11分団あって、どの地域にも属さない女性だけの分団があったよ。</p> <p>女性だけだと、大変じゃないのかな。 それぞれの地域に分団があるのに、どうして女性だけの分団があるのか疑問だよ。</p> <p>女性分団があるということは、何かよさがあるにちがいない。</p> <p style="text-align: center;"><b>女性分団があることよさは何だろう</b></p> <p>消防署や他の分団の人、市民にとって何かいいことがあるのではないかな。</p>					
行動	<p>2 女性分団があることよさを考え話し合う。 (1) 個別に又は友達と (2) 全体で</p> <p>理由や根拠をはっきりさせて自分も友達も納得のいく考えをつくろう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">消防署の人にとっては、一緒に防火のために呼びかけをしてくれる人が増えるから、有り難いと思っているのではないかな。</td> <td style="width: 33%;">他の分団の人にとっては、団員が増えることで嬉しいし、もっと頑張ろうと思えることがよさだよ。団員の方の話を基に考えたよ。</td> <td style="width: 33%;">市民にとっては、女性分団が考えた防火・防災の話が分かりやすく、火事などに気をつけようという気持ちになることがよさだよ。</td> </tr> </table> <p>確かに、他の分団の人からすると、火事にならないように一緒に活動する人が増えるから心強いだろうね。 市民が気をつけようという気持ちになることがよさなんだね。そうになると、市もより安全になっていいね。 消防署の人からすると、嬉しいだろうね。消防署の人と同じで、市全体のために活動する人が増えることはよいことだね。</p> <p style="text-align: center;">みんなの考えをまとめてみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">消防署や他の分団の人にとってのよさは、火事から命を守るために活動する仲間が増えて嬉しいことだよ。</td> <td style="width: 50%;">市民にとっては、火事に気をつけようという意識になって、自分やまちを守ることにつながるものがよさだね。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">話し合ったことを資料で確かめてみよう。</p>	消防署の人にとっては、一緒に防火のために呼びかけをしてくれる人が増えるから、有り難いと思っているのではないかな。	他の分団の人にとっては、団員が増えることで嬉しいし、もっと頑張ろうと思えることがよさだよ。団員の方の話を基に考えたよ。	市民にとっては、女性分団が考えた防火・防災の話が分かりやすく、火事などに気をつけようという気持ちになることがよさだよ。	消防署や他の分団の人にとってのよさは、火事から命を守るために活動する仲間が増えて嬉しいことだよ。	市民にとっては、火事に気をつけようという意識になって、自分やまちを守ることにつながるものがよさだね。
消防署の人にとっては、一緒に防火のために呼びかけをしてくれる人が増えるから、有り難いと思っているのではないかな。	他の分団の人にとっては、団員が増えることで嬉しいし、もっと頑張ろうと思えることがよさだよ。団員の方の話を基に考えたよ。	市民にとっては、女性分団が考えた防火・防災の話が分かりやすく、火事などに気をつけようという気持ちになることがよさだよ。				
消防署や他の分団の人にとってのよさは、火事から命を守るために活動する仲間が増えて嬉しいことだよ。	市民にとっては、火事に気をつけようという意識になって、自分やまちを守ることにつながるものがよさだね。					
振り返り・見通し	<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>女性分団があることよさは、火事などから自分の命や地域を守ろうという意識を市民全体に広げ、市の防火・防災力を高めることなんだね。より強い消防団をつくることにもつながるね。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">根拠となる資料をはっきりさせて友達に伝えられたから分かったよ。</td> <td style="width: 50%;">友達のいろいろな考えを聞いて、取り入れることができたから分かったよ。</td> </tr> </table> <p>自分たちも火事を減らしたい、起こらないようにしたいと思ったから、次の時間は、そのためにできることを考えていきたいな。</p>	根拠となる資料をはっきりさせて友達に伝えられたから分かったよ。	友達のいろいろな考えを聞いて、取り入れることができたから分かったよ。			
根拠となる資料をはっきりさせて友達に伝えられたから分かったよ。	友達のいろいろな考えを聞いて、取り入れることができたから分かったよ。					

評価	女性分団があることよさについて、既習の資料や友達の考えを参考にしながら考え話し合うことで、防火・防災のための工夫を凝らした広報や講話などにより市民の防火、防災意識の高まりにつながるなどのよさについて考えたことを表現している。 【方法：発言、記述、表現物】
----	---

## 7 本時の詳細

### ～見通し～ 学習活動1

本時ではまず、前時の学習内容として市内の各地域に消防分団があり、地域の安全を守っていることや、各地域の分団とは別に女性分団があったことを確認する。また、それぞれの地域に分団があるにもかかわらず、女性分団があることを疑問に思っていたことを想起できるようにする。その際、火事から命を守るための道具や設備、消防署などの関係機関の人々の働きについての学習内容をまとめた補助黒板を用意しておく。また、子供の発言に合わせて、掲示物やノートに注目することを促すことで、前時までの学習の想起が難しい子供も想起できるようにする。

消防団の分布をまとめた地図を基に、「それぞれの地域に消防分団がある理由は分かるけれど、それぞれの地域に属さない女性分団がある理由が分からないよ」などの子供の発言を取り上げ、何か女性分団のよさがあるということ共有することで課題を明確にし、考えていきたいという思いを高める。さらに、「女性分団があることで、誰にとっていいことがあるかな」と全体に問いかけ、消防署や他の分団の人、市民という立場に立って考えていけばよいことを共有する。その後、まず考えていけそうだと思う立場を選択して、板書上に名前磁石を貼る場を設定することで、困った時に一緒に考えたり、考えを交流したりする際の参考にできるようにする。

### ～行動～ 学習活動2

まず、「自分も周りの人も納得できる考えにするためには、どうすればよかったかな」と問いかけ、方法の想起を促す。

子供たちは、既習の資料を参考にしながら、それぞれの立場にとってのよさを考え、カードに表現していこう。その際、各自が持つ既習の資料を一覧にしたものの中の参考にした箇所に丸を付けるようにすることで、考えの根拠を明確にできるようにする。考えをつくるのが難しい子供には、既習の資料を基に、「〇〇（選んだ立場の人）は、女性分団の活動をどう思っているのかな」と問いかけ、よさに気付けるようにしたい。必要に応じて友達と一緒に話しながら考えをつくることを認め、考えができた子供には、友達と考えやその根拠が同じか違うかを意識しながら交流するよう促す。

消防署の人にとってのよさ 	いっしょに防火のよびかけをする人がふえるから、心強い。
他の分団の人にとってのよさ 	消ぼうだんのなかがふえるから、うれしい。
市民にとってのよさ 	女せい分団の人の話が楽しい、分かりやすい。

【考えを表現するカードの例】

全体交流では、考えとその根拠を共有していく。まずは、消防署、他の分団の人にとってのよさを順に取り上げ、市の安全のために活動する仲間が増えたり、女性分団の頑張りを見てもっと頑張ろうと思えたりすることをおさえない。また、市民にとってのよさを共有する際には、女性分団ならではの活動が、市民の防火、防災意識の高まりにつながることをおさえない。

話し合ったことは、女性分団の方の話の映像資料を使って確かめる。新しく分かったことを全体で確認し、女性分団があることで消防団の強化や、活動を市民に喜んでもらい、地域の防火、防災力を高めることにつながっていることについて理解を深めていきたい。

### ～振り返り・見通し～ 学習活動3

本時分かったことと、分かった理由について振り返りカードに記述する時間を設ける。分かった理由の項目については選択肢を設けておき、印を付けるようにすることで、自分の学び方（資料を見ること、友達と話すことなど）の何がよかったから、課題についての答えが見付かったのか簡単に振り返りやすくする。個人で学習を振り返った後に、記述内容を全体で共有し、「根拠をはっきりさせたり、友達の根拠が何か考えながら話し合ったりすることができたから、より納得できる考えをつくることができたね」などと方法を使えたことのよさを価値付ける。

その後、これまで学習してきた火事から命を守る人々の働きについて思ったことを自由に交流する場を設定し、消防団員の人たちのように防火のために自分たちにできることを考えたいという意見を取り上げ、次時の見通しをもてるようにする。